

佐々木氏の家紋 六角氏と京極氏

廣田平治

現在公式には京極家が七つ割四ツ目紋であり、六角家は隅立て七つ割四ツ目紋とされている。これについて私は疑義を覚える。

1. 四ツ目紋の謂われは、宇多源氏の祖敦実親王が狛の長者と共に、近江八幡市の渡り合橋下に棲む大蛇を退治した時に、大蛇の目が、水面に映り四つに見えた事から、佐々木氏の家紋は四ツ目紋になったと云われる。この事から正式紋は、平四ツ目紋と考えられる。
2. 佐々木氏の本貫地は佐々木郷である。この地にある佐々木神社は佐々木氏の氏神である。この地を信長に攻略されるまで統治していたのは六角氏である。故に六角氏は本家（適流）であり、京極氏は分家である。

江戸時代（宝暦3年1753）の佐々木南北諸氏帳には京極家を近江源氏適流としながらも、六角家を源姓として敬意を表しているように見受けられる。（本当はこちらが適流と思える記載）平四ツ目紋は適流家の家紋と考えられるのではないのか？それ故江戸時代の丸亀京極家は平四ツ目紋を用いる。

隅立て四ツ目紋は分家筋の使用紋であると思える。同じ佐々木の高島氏の分家である朽木氏の紋は、隅立て四ツ目紋である。家来の三雲氏も隅立て四ツ目紋である。（城跡の石の刻印）なぜ本家の六角氏が隅立て四ツ目紋であるのか？

尚、京極家の多度津・豊岡・峯山藩主は何れも、隅立て四ツ目紋を用いる

3. 京極家及び六角家の当主の肖像画を見ても江戸時代の様な家紋を付た図は見当たらない。有名な京極道誉（高氏）も道服である。家紋が定まったのは江戸時代からか？
4. 六角家は江戸時代は旗本（後絶家）・前田家の家臣と振るわず、一方京極家は丸亀・多度津・豊岡・峯山と4家が大家と繁栄し、中でも丸亀京極家は柏原の徳源院（清竜寺）の京極家墓所を整備し、佐々木神社の復興を援助して、本家様な活動した結果家紋を本家の四ツ目紋に変更したと考えられる。故に没落した六角家は変形紋の隅立て四ツ目紋にされたのではないか？六角家の墓所は京都田辺市の酬恩庵（一休寺）に六角承禎の墓がある。

永年六角氏・観音寺城を研究された、田中政三氏によると、六角定頼の系統は分流の箕作氏としていて、10代氏綱の系統が正系とされている。（本項は正式には認められていない）此れであれば、六角氏も江戸時代以降であれば前項の箕作氏の系統であり、隅立て四ツ目紋となっても不思議ではない。同氏の著作では京極・六角氏とも正系は正四つ目紋であると記載されている。

5. 北之庄城の河端義昌は六角氏10代の氏綱の次男であるが、当時は六角氏は隆盛であり、逆に京極氏は落剝していた。御城印は三雲城が隅立て四ツ目紋なので、北之庄城は本家の系統なので平四ツ目紋にする。この城は戦国時代の城である。江戸時代ではない
6. 以前開催された。観音寺城・六角氏のイベントでも平四ツ目紋が使用された。
7. 北之庄には江戸時代の領主朽木氏の陣屋跡が残る。朽木氏の家紋が隅立て四ツ目紋なので、混乱する恐れあり。
8. 当地では佐々木氏といえれば四ツ目紋が浸透している。（佐々木神社の神紋からか？）
 6. はこれを考慮して使用されたと推察する。

以上